

2026 年 7 月

【1 分解説】オンチェーン金融とは？

政策調査部 シニア研究員 河谷 善夫

オンチェーン金融とは、預金や株式、社債、不動産などの権利をデジタルデータ（トークン）に置き換え、ブロックチェーン上で発行、保有、移転、決済などを行う新しい金融の仕組みです。従来は、銀行や証券会社などのシステム間で情報を照合しながら取引を進める必要があり、時間やコストがかかっていました。一方、オンチェーン金融では、取引情報をブロックチェーン上で共有し、契約内容を自動的に実行する「スマートコントラクト」を活用することで、決済や資産移転の自動化・効率化を図ることができます。

近年は、法定通貨と価値を連動させたステーブルコインや銀行預金をデジタル化したトークン化預金、株式や社債などをデジタル化したセキュリティトークンの活用が進み、金融取引のオンチェーン化が現実味を帯びています。また、AI が自律的に取引や契約を行う「AI エージェント」の普及が見込まれる中、改ざんが困難で 24 時間 365 日稼働するブロックチェーンが基盤技術として期待されています。

オンチェーン金融は、6 月末に公表された「骨太の方針 2026」原案にも明記され、政府も成長戦略の柱の一つに位置付けています。今後は、物流や商取引と決済をリアルタイムで連動させるなど、金融と産業をシームレスにつなぐ金融インフラの重要な基盤となる可能性があります。